

家庭と学校をつなぐ、有意義な保護者会を...

保護者会は、普段接することのない保護者と教師のコミュニケーションの場として重要な位置付けにある。生徒が主体的に学習や進路選択に取り組むためには、学校だけではなく、家庭での支援も大切だから、学校・教師への信頼と家庭でのフォローを得るためには、保護者に何をどう伝えていけばよいのか、効果的な保護者会の実施について考える。(1)より取り上げる保護者会とは、保護者を対象とした、すべての会合のことを指します)

保護者会の目的

不安になりがちな保護者が、理解と安心を得る場

進路面、学習面、生活面など様々な場面で生徒の健やかな成長をサポートするために、保護者と学校の連携は欠かせない。保護者の多くは、自分の子ども

もに対して漠然とした不安を抱いている。そうした不安は、「学校ではどういう指導をしているのか」「学校は何をしてくれるのか」という疑問に結び付きやすい。

保護者会は、不安になりがちな保護者に、学校・学年の教育方針、姿勢を伝え、理解と安心を得てもらう場として位置付けられよう。「子どもは、家で学校のことをあまり話さないが、なるほど学校はこういうことをしてくれているのだな」と、保護者の学校(教師)に対する信頼

効果的な保護者会のための4 step

step 1 保護者会の告知

「保護者会のお知らせ」を配付する。出欠確認の他、保護者会で取り上げてほしい項目などを書く欄を設ける。

step 2 内容の検討

保護者の要望などを踏まえ、全体会の構成、内容について、進路・学習・生活に分け、学年会や進路指導部などで具体的に話し合い、配付資料を作成する。担任は、全体会の内容を踏まえ、クラス会の内容を考える。

step 3 保護者会当日

全体会 生徒を取り巻く環境について情報を提供する。また、学校・学年の教育方針、進路・学習・生活指導の方針を具体的に伝える。クラス会 クラスでの学習や生活状況を伝える。担任と保護者、保護者同士のコミュニケーションの場にする。

step 4 事後フォロー

保護者会が出た意見について、学年で話し合ったり、出席した保護者からアンケートを取り、今後の参考にする。「学年だより」などを発行し、欠席した保護者に対するフォローをする。

3年間を見通した保護者会

1年次 高校に対する理解を深めてもらうため、教育方針や指導方針、進路指導の意義・重要性、中学校との違いを伝える。
2年次 入試の準備期間に入るため、進路選択、大学受験のより詳しい説明をする。中だるみを防ぐために、その克服や部活との両立について注意を促す。
3年次 入試を迎える生徒を家庭でも支援してもらうために、入試制度や進路選択、学習面からの留意点を説明する。

保護者会

保護者会での教師の悩み

進路情報など大事なことを連絡する場なのに、保護者の出席率が低い。

どんな資料を配付すれば、保護者は教師の話に納得してくれるだろうか。

クラス会は保護者のおしゃべり会になってしまっているが、これでよいのだろうか.....。

を得る絶好の機会と言える。その信頼は、学年が進み、3年次の受験校決定の面談における、教師のアドバイスに対する信頼にもつながっていく。

保護者会では、「初めて高校生を持った保護者」の目線で話をするとよいだろう。事実、少子化でそうした保護者の割合が高いいし、たとえそうでなくても、兄や姉のときと入試制度などが変わっているケースがあるからだ。また、保護者会にはできるだけ多くの保護者に出席してもらいたい。時には出席率を高める

ための工夫が必要となるだろう。例えば、1年次の最初の段階で、今後の保護者会の予定と目的を説明して次回への参加意識を高める、講演会などの特別企画を盛り込む、開催の日時を考慮する、といった方法が考えられる。

保護者会は「全体会」と「クラス会」に大別できる。全体会は学校・学年の指導方針や保護者全員に必要な情報を伝える場、クラス会はクラス別の情報を伝えると共に、担任と保護者、保護者同士のコミュニケーションの場として位置付けられる。

VIEW'S method

クラス運営・進路学習のための

効果的な取り組みのための手順とポイント

part 1 全体会の役割と留意点

正しい情報と学校方針を伝え、信頼を得る

全体会の役割は二つある。

一つ目の役割は、保護者に社会環境・進路環境などについての情報を提供し、生徒を取り巻く状況について理解を深めてもらうことだ。

保護者は自分の経験(自分の高校時代、生徒の兄・姉の高校時代)の延長線上で現状を判断する傾向が、時に見られる。また、マスコミ等の影響で大学入試などについて、偏った認識をしている部分もある。そうしたギャップを埋め、現状を正しく認識してもらうために、客観的で正確な情報を提示し、内容を正しく伝える。これは保護者に、生徒のよき理解者となってもらうために重要なことだろう。事前に保護者に読んでもらい

二つ目の役割は、学校・学年の教育方針・姿勢を理解してもらうことだ。

保護者の学校に対する不安を解消し、学校(教師)への信頼を高めてもらうために、方針は明確に打ち出し、分かりやすい言葉で伝えていきたい。「学校の授業を中心とした学習習慣を身に付けさせる」「生徒主体の進路学習を積極的に行う」「部活を重視し、人間的成長を促す」などは、つきりとした目標があれば、保護者の学校(教師)に対する信頼感が高まるだろう。

方針には3年間を見通した長期的方針と、学年・学期ごとの短期的方針がある。その学年・学期に見合った方針を立て、保護者に伝えていきたい。

part 2 クラス会の役割と留意点

担任と保護者、 保護者同士の 相互理解の場

クラス会は、全体会の内容を踏まえ、クラスの学習や生活状況を伝える役割もあるが、それ以上に担任と保護者、保護者同士のコミュニケーションの場としての役割が大きい。保護者は自分が抱える不安（子どもの進路進学など親として初めて経験することへの不安）を、自分だけが持つ特別なものと思いがちだ。保護者同士が話し合うことで、不安や悩みは多くの保護者に共通のものであると気持ち、安心感を得ると共に、保護者同士の一体感が生まれる。このことが持つ意義は非常に大きい。したがって、クラス会は担任が主導権を握りすぎないようにし、保護者同士の話し合いが活発になるように配慮するとよい

だろう。あらかじめ打ち合わせをした上で、保護者に司会をしてもらうという方法もある。

取り上げる話題は、日常生活に沿った、誰でも話に参加できるもので、しかも関心が高いものを選ぶ。成績の話は多くの保護者にとって大きな関心事であり、悩みでもある。ただし、生徒個々の成績の身にまで踏み込まないように気を付けたい。また、部活と学習の両立の問題も保護者の関心が高い。

話の内容は、具体的であるほど盛り上がり、かつ役に立つ。1人の保護者から、「うちの子は家に帰るのが遅くて勉強する時間がない」といった話が出れば、「うちも同じ」と共感する保護者もいるだろう。それだけでも保護者の不安を和らげる効果はある。

また、他の保護者の前では話せない不安や悩みを持つ保護者もいる。クラス会が終わった後も教室に残って簡単な二者面談の場を設けるなど、保護者が教師と話をしやすい環境を作るとよいだろう。保護者にとっては担任に話を聞いてもらったという経験が安心感につながる。

part 4 学年別の留意点 1年次の保護者会

中学校との違い、 進路指導の 重要性を強調する

1年次の最初には、学校・学年の教育方針、姿勢を伝えると共に、学習や生活習慣などの中学校と高校の違いを説明したい。特に、高校の授業は中学校に比べて進度が格段に速く、内容も難しい。中学生のときは授業を聞くだけでよい成績が取れても高校では予習・復習をしないと授業に付いていけないことを伝え、主体的な学習と自分の頭で考える重要性を理解してもらおう。

また、'03年度導入の新課程から、科目や授業内容が変わることなど、現在の教育の流れについても簡単に説明したい。

次に進路指導の重要性を理解してもらおう。「進路指導＝受験指導」と考える保護者もいるので、進路指導は生徒の興味・関心に基ついて行われるもので、生徒が充実した人生を送るために進路における夢を叶えるのが目的であることを説明する。

進路指導は1年次から始まることを強調し、例えば、1年次は自己理解・職業研究、2年次は学問研究、学部・学科研究、3年次ではそれらの研究を踏まえて最終的な志望校決定に至ることなど、進路指導の3年間の流れを知ってもらおう。さらに学校の進路指導の方針を説明し、理解を求めよう。2年次に文理選択を行う高校では、早めにそのねらいや文理の違いなどを説明したい。

子どもの進路選択における親の役割の重要性も伝えたい。進路について子どもと一緒に考え、人生の先輩として助言する姿勢をお願いする。同時に親の希望を押し付けたり、反対に子どもの進路に無関心にならないよう注意を促しておくことも重要だ。

また、入学直前の3月に新入生と保護者対象の説明会を行う高校も多い。保護者に高校への理解を深めてもらい、新入生には学習への動機付けを図る最初の機会として上手に利用したい。

VIEW'S method

効果的な取り組みのための
手順とポイント

保護者会

part 3 事前準備と事後フォロー

学年会で方向性を 固めて臨み、 結果は今後を生かす

事前準備では、今度の保護者会でどんな内容を伝え、話し合うか、学年会である程度方向性を固めておく。前年度の学年の教師に保護者会の様子や事後アンケートの要点などを聞き、そのときの資料を見せてもらうとよい。また、保護者会実施の案内に「当日、取り上げてほしい項目」の記入欄を作り、保護者の要望をくみ上げる方法もある。

事前に保護者に読んでおいてもらいたい資料については前もって配付しておくとういだろう。事後のフォローには、保護者へのフォローと教師自身のためのフォローがある。前者は欠席者へ当日使用した資料を配付したり、「学年日より」を使って保護者会での質疑応答を報告する。

part 5 学年別の留意点 2年次の保護者会

中だるみ克服と 受験へ向けた 準備を促す

2年次になると進路選択、大受験が現実味を帯びる。受験勉強に向けての学習方法や、3年次でのコース選択と志望校との関連など、進路の詳しい説明が必要だろう。具体的な大学名を挙げると、保護者は自分の子どもに置き換えて考えやすい。

2年次は「中だるみの2年生」とも呼ばれているが、逆に言つと中だるみを克服すればよい結果にもつながりやすい。いかに学習に目を向けるかが、2年次の最大の課題の一つであることを伝えたい。実際に頑張っている生徒や、中だるみを克服して志望校に合格した先輩の体験談・成績推移表などを提示すると、保護者への説得力も増す。

とは言っても、子どもに対して単に「もっと勉強しなさい」という類いの言葉は言いすぎないようにお願いする。この言葉は、子どもが親に最も言われたくない言葉の一つであり、逆効果になりかねない。子どもの学習状況を親が知ることは大切だが、単に尻を叩くような言葉は抑えてもらうようにしたい。

受験への焦りから、「塾に行かせた方がよいのでは」と言う保護者も出てくる。学習で一番大切なのは、自分の頭を使って考えること。そのためには自主的に机に向かい、自分で考える時間が必要だ。塾もただ通っただけでは効果が薄く、自学自習をして初めて身に付くことを伝える。

2年次になると部活と学習の両立も、保護者の大きな関心事となる。「勉強に差し障りがあるのでは」と不安を持つ保護者も出てくる。しかし、部活をやめても、必ずしもその時間を学習に充て、成績がよくなるわけではない。生徒自身が悩んで、自分から部活をやめるといつ結論を出すならともかく、親が無理やりやめさせても、必ずしもよい結果にはならないことを伝えたい。

保護者会資料に盛り込む項目例	
1年次	社会環境や進学環境について 中学校と高校の違い 進路選択の考え方 家庭教育や親の役割の重要性を説いた読み物の紹介 授業と家庭学習の重要性を伝える先輩の体験談
2年次	3年間の学校行事予定表と行事の目的 学習状況・生活習慣の調査結果 文理分けの説明 文理解分の説明 3年次の科目・コース選択説明 部活と勉強の両立に関する先輩の体験談 志望者の多い学部・学科の内容の簡単な紹介 志望者の多い大学の入試動向
3年次	模試などの成績表の見方 中だるみを防ぐ方法や先輩の体験談 学習状況・生活習慣の調査結果 卒業生の合格体験談 進路を決定する上での留意点 卒業生への接し方や支援の仕方など

入試制度と入試までの流れを理解してもらう

保護者の多くは、子どもの大学受験について不安を感じている。学校が生徒の受験を全面的にサポートすることを伝え、不安を解消するようにしたい。

まず、学校・学年の基本的な受験指導方針、例えば「現役合格」「国立大重視」「学校の授業を中心に合格力を養う」などの方針を説明する。次に、入試日程に対応した具体的な指導体制、志望校決定の流れ、センター試験後の指導内容などを示す。

大学入試制度の仕組みも、大まかに理解してもらおう。入試制度は保護者の学生時代と比べて大きく変わっており、特に初めて受験生を持つ保護者はその仕組みをほとんど知らないと考えた方がよい。まずは4年制大・

短大・専門学校の違いを知ってもらう、大学入試に関する仕組みや専門用語（センター試験、2段階選抜、個別学力検査、前期・中期・後期日程、方式別入試、地方試験、推薦入試など）を解説する。また、日程を含めた入試までの流れを理解してもらう。資料を表などにまとめると、保護者の理解も深まるだろう。

受験に関する基本的なこと、例えば受験資料の取り寄せは、高校受験では中学校の担任がしてくれただが、大学受験では生徒が自分で取り寄せ、手続きをするといったことも説明した方がよいだろう。また、同じ大学でも学部によって所在地が異なることがあるので、志望学部のキャンパス所在地を確認するなどの注意も促しておきたい。

大学の学費、大学生活にかかる費用、受験費用に対する保護者の関心は高い。学費や受験費用は国立大・私立大別、文理別、生活費は自宅・下宿別でどのくらい差があるのかを説明する。学費については、現在、特に文系は国立大と私立の差が縮まっていることも伝えたい。

part 7 資料作成の要点

データの羅列ではなく、学校の考えが分かるものを

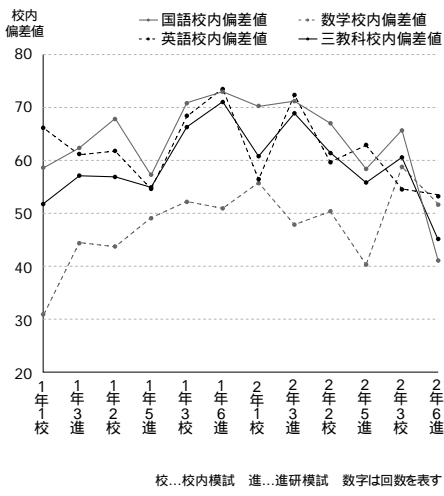
資料は、保護者が進路・学習・生活に対する理解を深める上で大きな役割を果たす。充実した資料をもらえば、保護者は「保護者会に参加してよかった」と学校（教師）に対する信頼感を増す。そのためには単にデータを並べるだけの資料に終わらせ

ず、学校の考え方や方針、姿勢などが自ずと伝わる、手作り感を残したものにしたい。
先輩の体験談や成績を載せる
合格体験談や成績の推移は是非在校生卒業生のものを取り上げたい。具体的な体験談や数値を出すことで教師の話に説得力が増し、保護者も理解を深めやすい。ただし、成功例でも個人名は匿名にする。配付したものは誰が目にするか分からないからだ。

内容に合った資料を選ぶ
例として出す体験談や成績は伝えたい内容に合うものを選択したい。同じような道を辿っても成功例と失敗例があるだろうが、保護者に伝えたいことに合

成績表

成績推移グラフ



保護者に成績表の見方を理解してもらうための資料となる。成績が下位から挽回した例、逆に伸び悩んだ例など、成績推移のパターンをいくつか載せれば、日頃の学習の重要性を認識してもらうにも効果的だろう。

VIEW'S method

効果的な取り組みのための手順とポイント

保護者会

進学について親子で本音で話し合うよう促す

志望校選択において、保護者は模試などの合否判定を絶対視し、過剰反応する場合がある。合否の度数分布などを資料として渡し、実際には合格、不合格のラインは絶対的なものではなく努力次第で志望校合格の可能性があることを理解してもらう。それが分かれば、子どもに対して「もう少し頑張れば合格できる」と、前向きな気持ちで見守ることができると思う。3年次の保護者会に限らず、保護者会が終わった後、「うちの子ども頑張れば何とかなる」という気持ちに保護者がなれば、その保護者会は成功したと言えるだろう。

また、志望校決定に関しては親が本音で話し合うことが何よりも大切だ。私立大進学が可能か、下宿は大丈夫かなどについて前もって話し合っておかないと、出願直前になって親の希望と子どもの志望の食い違いの問題が一挙に吹き出しかねない。少なくとも3年次の1学期頃までは、親子の意見をできるだけ

け一致させておくようをお願いしておきたい。
受験を目前に控えた時期の保護者会では、受験生に対する接し方についても触れておきたい。基本的には普段と同じように自然に接するよう理解を求める。気を遣いすぎて腫れ物に触るようになり、反対に「浪人は絶対にさせない」とプレッシャーをかけすぎたりしないよう伝えておきたい。

前年度の合格者偏差値表

東京大理科一類の場合				合否... 合格、x 不合格、/ 受験せず							
センター試験得点	模試得点	偏差値	学年順位	合否	大学前期	学部	学科	合否	大学後期	学部	学科
736	72	80.1	1		東京	理科一類		/	東京	理科一類	
721	69	78.2	3	x	東京	理科一類			九州	工	電気情報工
663	65	74.5	5	x	東京	理科一類		x	東京	理科一類	
694	63	71.2	10		東京	理科一類		/	東京	理科一類	
674	63	71.2	10		東京	理科一類		/	東北	工	人間環境
689	61	69.9	12	x	東京	理科一類		x	九州	工	建築

保護者は模試などの合否判定を絶対視する場合があり、D・E判定が出る、受からないと思いがちである。実際の合否と模試偏差値を提示することで、偏差値や順位が低くても合格の可能性があると納得してもらえよう。

わせて成功例だけを載せるか、失敗例も載せるかを考えたい。
プラスの情報を盛り込む
資料は前年度のものに基に作成するだけでなく、できるだけ新しいものを加えるようにしたい。学年会などで新しいアイデアを募ってもよい。インターネット上に掲載されている受験や進路に関する最新の情報などを利用するのも一つの手だ。

分かりやすく見せる工夫
数値はグラフ化する、スケジューリングは時系列に沿った表にするなど、見やすく分かりやすい

資料を作りた。全体会で資料を説明するときにはOHPを使用すると、保護者は手元の資料をいちいち見なくて済むので、話に集中してもらえよう。
パソコンを活用する
資料はパソコン（特にプレゼンテーションソフトが便利）で作成するとグラフ表も簡単にでき追加・修正もしやすい。データをディスクに保存して次年度の担当者に渡しておけば、それを基にして資料を作成できるだけでなく、方針や指導内容などの連絡もスムーズにできるだろう。

